

山岳ぐんま

平成27年度自然観察会 群馬百名山・産業遺産の山

「鉾石山(こうせきやま)」

群馬岳連自然保護委員会

三田 治 宣



採石跡地での解説



鉾石山で解説

今年度の自然観察会は、六月七日(日)に開催されましたが、これは平年より一か月半以上早く、昨年度から候補地を検討策定しました。

会場は川場村鉾石山及び木賊山

(とくさやま)です。観察会のコースがウルトラスカイビュートレイルのコースと重なりますので、昨年度が付けた反射テープを整備しながらの下見になりました。

年度の初めは行事が毎週のようにあり、その合間をぬつての下見・募集・実施でした。委員一丸となり下見をし、資料や情報集めなど多忙となりました。特に齋藤委員長、角田さんらの資料集めは今後のノウハウにつながると思います。皆に配る資料の量も熱意に比例すると感じてもらえたらありがたいです。

実施人数としては、毎回参加してくださる方や、キャッチコピーが良かったせいか初参加される方も多く、役員を含め総勢74名の自然観察会となりました。私が自然保護委員会に入ってから、今回が最大の規模となりました。

当方の下見の方法は、事前にインターネットで情報を仕入れてトロッコを通したであろう軌道のレール跡の確認や、コースの確認をする程度の登山道なりの下見でした。

しかし当日、齋藤委員長はコース歩きの間



野鳥の解説

中で採掘場行きを指示し、紙やすりの原料となるザクロ石(ガーネット)の採掘場の案内や採掘体験を取り入れました。ちょっと登山道からそれただけで皆さんの関心が一気に高まり盛況になりました。やられました、委員長の眼の付け所の違いに頭が下がりました。特に若い女性参加者の方の楽しそうなところが印象的でした。

毎回お世話になっているNACS-Jの齋藤さんに道中の自然解説を行っていただき、見過ごしがちな草花に目を向けるようになりました。木賊山の頂上を踏んだ後大休憩をとり、日本野鳥の会の岩田さんに出発前に楽しい講話をしていただきました。話し方が上手で鳥は見えなくても皆さんを楽し



まててくれました。また、野口さんは実際の場所で、下見の時に熊に遭遇した話をしてくれ、黙々としがちな帰路に話題を添えてくれ

ました。各委員もそれぞれ持ち場で参加者（お客様）をもてなし、終始和やかに下山できました。その甲斐があったのでしょうか、ア

ンケートで参加された皆さんにお褒めいただき、やつてよかったと感無量になりました。解散後は「ふじやまの湯」の庭のクリンソウの群生（寄せ植え？）を観てもらい、大勢の方に風呂に寄つてもらいました。出発直前の値段交渉が無駄にならずにありがたかったです。自然保護委員会の一大行事として定着した自然観察会ですが、一般参加された皆さん、役員の皆さんのおかげで今年度も無事に大盛況に終わつたことを感謝します。また来年もよろしく願ひします。

平成二十七年度 日山協遭難対策委員総会 出席報告

遭難対策委員長

町田 幸男



講義を行う溝手弁護士

今年度の総会は六月二十八日（日）に関西大学高槻キャンパスにて開催された。出席者は日山協遭難対策委員四十五名ほどであった。前日の二十七日（土）は研修会として岳人等でおなじみの溝手康史弁護士との講義と、各県における遭難対策に関する指導の実情について討議された。

溝手さんの講義では今話題の登山届の義務化をはじめ、登山に関する様々な法的問題について取り上げられた。溝手さんは昨年度岐阜県で実施された登山届の義務化

について、今年四月の朝日新聞に批判のコメントを記載されている。士は登山届について反対しているわけではなく、法的規制を行う場合はその目的と方法について合理性がなければいけないと訴えている。こういった観点からみると岐阜県の指導、勧告もなただの「届け出」のみははたして遭難防止に対し合理性が見いだせるのかはなはだ疑問である。自立を重視する社会では自由の規制を嫌う。自立性は民主主義、創造的活動、社会発展の前提であり、行政が過度に介入すれば国民は規制に慣れ、自立性が育たない。まさしく今の日本人そのもののような気がする。

また、法律、条例と行政指導の違いについても講義されていた。義務化には必ず法律や条例が必要だが、法律に基づく「行政指導」に従うかどうかは自由であるらし

い。日本では行政指導で目的を達成しようとする事が多いらしく、富士山での「協力金」もこれにあたるようだ。興味のある話では、私有地の山への登山について所有者は規制が出来るのかどうかがあった。平地の生活区に近い領域では私有地への侵入は不法になるが、生活の場から離れた山の頂上で古くから登山道として活用されてきた場合は必ずしも所有者が規制できるとは限らないらしい。クライミングで使用される里山の岩場（ゲレンデ）を見てみると信仰対象の言わば「御神体」である場合が多く、使用に対する主張は厳しいらしい。目立つ使い方をすれば規制されるのは当然で、モラルを持った使用が肝要との事であった。そのほか山に関する様々な規制やヘルメットの義務化、ヘリコプター有料化などについても言及しておられた。

後半は遭難防止に関する指導実態について四グループに分かれ討議された。現状は各県まちまちで、行政と連携しながら定期的な講習会を実施している県もあれば、岳連自体がじり貧で指導員の枯渇に苦慮しているとの声も聞かれた。ただ、多くの県で登山教室のよう

な一般向けの指導は増えつつあるようである。

二日目の総会は國松副会長のあいさつで開会した。定目である活動報告と今年度の活動計画について西内委員長より報告があった。

続いて青山副委員長より、十四年度の遭難統計およびUIAAに関する報告がなされた。全体の遭難件数は依然右肩上がりで過去最高を記録している。また、日山協共済関連の遭難も昨年は八十件と急増している。UIAA関連では登山委員会の総会が今年は日本で実施され、青山教授が長年取り組んできた遭難統計についてドイツ・フランスをはじめEU各国で情報共有を今後図っていくことの合意がなされたとの報告があった。

今年は関西での開催であったためか、関東以北の岳連参加が少なかった。群馬からも毎年数名参加させているが、旅費の関係もあり今年はゼロであった。仕事の都合や県内のイベント対応等多忙中、時間を作ることは厳しいかもしれないが中央のイベントにもなるべく参加を図り、国内の登山事情を知るべく情報入手の場としていただきたい。今後も若い方々の参加に期待する。

平成二十七年 度

全国山岳遭難対策協議会

遭難対策委員会

角 田 守

七月二日、文部科学省に於いて、文部科学省、環境省、警察庁、気象庁、消防庁、公益社団法人日本山岳協会、独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所、山岳遭難対策中央審議会の主催にて開催されました。

群馬岳連からは、八木原会長（日山協会長）、町田遭対委員長（日山協遭対副委員長）、角田遭対副委員長（日山協遭対常任委員）、齋藤自然保護委員長（日山協参与）、横山（救助隊隊長）、高田（クラブ）が出席。群馬県警から阿部妙義山警備隊長（前橋山岳会）も出席しておりました。

警視庁生活安全局地域課より平成二十六年度の山岳遭難件数等の発表があり、群馬県は八十八件全十位。

しかしこれには山岳遭難以外の山菜取りも含まれており、全国平均で前者が七十七・〇%、後者が十一・七%の比率となっております。

山岳遭難中、道迷いによるものが四十一・六%と圧倒的に多く、年齢別にみると六十歳以上で五十・一%、四十歳以上までに下けると七十六・四%となり、遭難者数は増加の一途です。

地域別にみると発生現場は、長野県、富山県、北海道の順ながら、出身地別でみると東京、神奈川県、大阪と都市部より山岳地に出掛け迷惑を掛けているといった図式が見えてきます。

昨年の大惨事として記憶されておられることと思われませんが、御嶽山噴火災害における消防機関の救助活動の報告を長野市消防局篠ノ井消防署より、消防・警察・自衛隊・医師の投入活動状況、非公開の救助活動時の画像を時系列にて発表がありました。

火山関連で気象庁より、火山に登る登山者向けの情報提供について今後の取り組みの説明と情報開示の変更点の説明がございました。山岳遭難の発生件数ワースト1

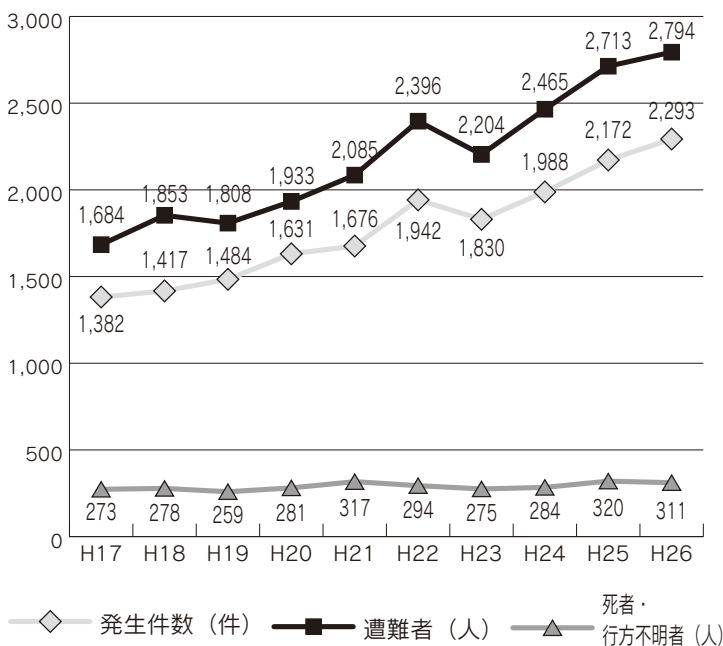
の長野県が音頭を取った「登山ルートグレーディング」の発表・提案が、山梨県・新潟県・静岡県と合わせてございました。

これらの県及び県警と協定を締結、Web上での登山届の提出・管理をする「コンパス」システムの説明と「公益社団法人日本山岳ガイド協会」の活動内容説明が同協会武川常務理事よりございました。

これらの遭難や御嶽山の事例を捉えた時「登山届の提出」の徹底が急務と考えられます。

各自自治体、団体が其々で動くのではなく、この協議会を運営しておりますところの省庁が全国一元化のフォーラムを作成し管理運営することが、問題が少なくないと思われます。

現状を考えますと、遭難対策委員会に於ける活動として「登山届提出の啓蒙活動」の重要性が高くなって行かなくてはなりません。手始めに谷川岳山開きにてその一歩を踏み出しました。今後も一般登山者に向けたより積極的な啓蒙活動に取り組みたいと思います。



山岳遭難の推移

安全登山啓蒙活動と 群馬岳連救助隊訓練

群馬岳連救助隊隊員 阿左美 卓 巳

*山岳保険は必携登山装備です



ロープウェイ駅での安全登山パンフレット配布

毎年、山への人気は高まる中、遭難・事故は減らず増加の一步を辿っている。私達遭難対策救助隊は安全登山の啓蒙活動として、登山者に対し安全登山の冊子を配布し、安全登山と登山計画書の提出を促した。多くの人達が快く受け入れてくれていた。その後、救助隊訓練の為、隊の装備と個人装備を準備し一ノ倉沢へと向かった。一ノ倉沢出会いから少々藪道を超えて、途中から雪渓へ。残雪の多い今年はテールリッジ

ジ取付きまでルートの大半をほぼ雪渓でつめる事が出来た。早速訓練開始の準備へ取り掛かる。この日のリーダーからは早速『ザックが小さい!』とのご指導を受けた。個人装備は少なくとも、救助用具を分担して持つていくには大きいザックが必要だ。当日の訓練はロープを主体とし、

山と登山計画書の提出を促した。多くの人達が快く受け入れてくれていた。



新隊員への指導風景

要救助者を搬送するためのルートワークを繰り返し行った。トツプは支点を構築しながらロープを引いていく。セカンドは次のルート工作の為のロープやギアを大量に背負い込んでユマールで上がっていく。サードはトツプ・セカンドが使用していった支点を、後から来る重い装備を背負った隊員の登高がしやすいようにピッチを切って支点を作り直したり強化したりする。最後尾の要救助搬送用にルートを作り直すという役目の訓練も

行った。それぞれの役割を説明してもらい、メンバー全員がそれぞれの役割を全て経験出来るよう繰り返し行った。確実な支点工作はもちろんの事、いかに早くルート工作出来るかが救助隊の力に繋がる。体力やクライミング能力は必要だが、その他にも救助道具の扱い方、救助のためのロープワーク、覚えなくてはいけない事が盛りだくさんだ。この先も訓練を積み重ねて、メンバーの一員として早く役立てるようになりたい。



テールリッジ取り付け点での訓練風景

日本山岳協会 山岳レスキュー講習会(無雪期)

遭難対策委員会 神垣聖子

平成二十七年九月十一日から九月十三日、独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所で日本山岳協会による山岳レスキュー講習会(無雪期)が行われました。積雪期と無雪期にわけて年二回、登山での遭難防止及び遭難事故現場に必要な登山者の救助技術の習得・研鑽を目的とした講習会です。

コースは縦走・ハイキングレスキューコース、クライミングセルフレスキューA・Bコース、クライミングワークレスキューコースの四編成です。クライミングセルフレスキューAコースでは、クライミングに於けるセルフフレスキュー基本技術の確認・実践を、Bコースはシミュレーションを主に行います。クライミングワークレスキューコースは、クライミングに於ける救助隊組織をイメージしたレスキュー技術について学びます。クライミングセルフレス



ストレッチャによる遭難者の引き上げ

希望者には受講料を免除し、スタッフ補助として研修できる制度を利用して、クライミングセルフレスキューAコースに参加させていただきました。Aコースでは、登攀中にトッブが落石や墜落等により動けなくなつた場合を想定し、宙吊り地点からテラス等の安定した場所まで移動させる技術を以下の流れで学習しました。

- ①ピレイからの自己脱出
- ②要救助者へのアクセス
- ③要救助者の状態確認・応急手当
- ④支点の補強・フリーロープのフィックス
- ⑤振り分け救助の準備
- ⑥要救助者のところへ懸垂下降
- ⑦振り

分け救助システムのセット ⑧振り分け懸垂で安定地点まで下降
初日は雨のため室内でシステムを理解し、翌日屋外で一連の流れを通して、時間いっぱいまで数回行いました。最終日はこのシミュレーションです。主任講師の方から配慮いただき、私も一連の流れを通して行っているところに一度、交せていただきました。講習生の方は盛岡や岡山、鹿児島など遠方から参加の方も多く、たいへん熱心を受講されていました。最終日には自主的に朝練が行われ、私も



人工壁での各クラスの講習風景

人数調整のため、勉強のため朝五時からシステムの確認に参加しました。もちろん、主任講師の方も一番乗りでお付き合いくださっています。積雪期のレスキュー講習会と同じグループだった講習仲間にもまた会えたのも嬉しかったです。趣味のため、仕事のため

に勉強しながら自分を実現させていこうとする姿に「スタッフをしながら勉強できる恵まれた環境にいながらいつぱいになっている場合ではない!!」と励まされたような気がします。が、実際は頭も気持ちも大忙しの三日間でした。まだ駆け出しにも満たないうちから勉強の機会を得ましてキャパオーバーぎみではありますが、今回の講習内容をアウトプットしながら自分自身に技術を定着させていこうと思います。

テントフォーラム in かなやま

群馬岳連遭難対策委員長 町田 幸男

この企画は三年前より日山協遭対常任および中央労山の共同で埼玉の長瀬にて開催してきた。昨年は、イベントが重なったため中止となったが、今年は群馬岳連が主

催して太田市の金山キャンプ場にて十月三・四日の二日間開催した。

趣旨は、近年増加しつつある山岳遭難を減少させることにある。



三角巾を使った応急手当

よって、ターゲットは初心者で未組織登山者とした。また、遭難で最も多い態様が道迷いであることから地図読みであるナビゲーションスキルに趣を置いた講習会とした。内容はできるだけやさしく、解り易く楽しい講習会をイメージできるような構成とした。

参加者はトータル十名と少なかったが、群馬県内からの参加は三名のみで他は東京、神奈川、埼玉と意外にも遠方からの参加者が多かった。ほとんどが登山をこれからしてみたいとか、始めてまだ日が浅く山岳会には入っていない方々で、テントに泊まるのも初めての方が多かった。まずは狙い通りの方々に集まっていただけだと思う。スタッフは総勢10名で、オプザーバーが2名参加。夕方からは佐藤理事長も参加いただき、吉田副会長からは差し入れを頂い

た。

講習会は三日(土) 十三時から四日(日) 十三時まで開催した。初日は講義を主とし、初めに遭難の現状と計画書の重要性、山岳保険やヒトココについて星野指導委員長に講義いただいた。次に応急手当と三角巾の使い方について神垣遭対委員、ビバークとツエルトについて日山協遭対常任の瀬藤委員(埼玉岳連)、山で使えるロープの結び方について角田遭対副委員長にそれぞれ講義いただいた。日が



ストックとレジ袋を使ったツエルトの張り方

暮れる前に各自持参したテントを張り、就寝準備を行った。三名の方々がツエルトによるビバーク体験を希望された。

夕食を済ませ日が沈むのを見計らい、ナイトウォークを実施した。十八時から二時間かけてヘッドライトを頼りに金山山頂を往復した。みな初めての経験に大変興奮し、暗闇の山の中がいかに危険かを体験していただけたようである。講習は20時で終了し、あとはスタッフを交えた情報交換会を行った。交

換会では高崎から応援に駆け付けてくれた高田消防士(Σ)から昨年の御嶽山噴火事故における救助現場の貴重な映像を上映いただいた。

二日目は八時から地図読みについて角田副委員長に講義いただいた。地図読みと言うと、磁北がどうかコンパスによる現在地確認とか、初心者にはとつきにくい講習会になりがちである。しかし、今回はどのように目標物を決め、それをどのように確認しながら目的地に向かったら良いかといった

ナビゲーション能力について勉強していただいた。多くの道迷い遭難はまさしくこのナビゲーションが出来ていない事に起因すると考えられる。補足として町田からGPSについて簡単な講義を行った。九時からは二班に分かれて地図読みの実践を行った。ルートはキャンプ場から金山山頂を通り、南側にある金山城跡ガイダンス施設に一度下った。施設では簡単なビデオを見ていただき金山城の歴史についても学習する事が出来た。施設からは中腹まで登り返し、西



山で使えるロープの縛り方

へ延びる尾根を下って群馬こどもの国を横切りキャンプ場へと戻った。歩行中はポイント・ポイントで現在地を確認したり、目的地まであとどれくらいなのか考えながら行動した。また、アクシデントを想定した応急手当のシミュレーションも実施し、実際の山で事故が起きるとさまざまな対応を図らなければならぬことを体験いただいた。今回は五、六名のパーティー編成で、先頭を交代しながらの行動とした。普段は単独での登山をしている方には団体で登山をする難しさと楽しさを体感いただけたことと思う。

十三時、キャンプ場多目的ホールにて閉講式を行い解散した。回収したアンケート結果は好評で、当初の目的はほぼ達成されたと思う。また、開催地についても大変良好であった。ホールが使用できるため、雨天にも対応可能であることや、金山は手ごろなルートが設定可能で山頂付近まで車道が整備されているため緊急時の対応など利便性にもたけている。また、山頂付近は金山城発掘の整備が進んでおり、さまざまな面で楽しむことができる。今回最大の反省点としては、思



行動中のアクシデントシミュレーション

うように参加者が集まらなかったことにある。公募はパンフレットを主として、日山協や岳連、関係スポーツ店のホームページを活用したが対象とする山の初心者の中には留まらなかったようである。今回の募集では、これから登山に興味を持つ人たちがどのような情報環境にいるのか更に分析する必要がある。

このイベント開催は群馬では初めての試みであり戸惑いもあったが様々な方々と意見交換ができ、

また山の初心者が登山をどうとらえているのか知る良い機会であった。準備段階から至らない点が多々ありご協力いただいた方々には大変ご迷惑をおかけいたしました。おかげをもちまして事故もなく無事終了することができましたこと感謝申し上げます。小さな活動ですが、減遭難につながる一歩であると確信します。次回開催にあたっては講習生、指導員ともより多くの方々に参加いただけるように切に希望する。

平成27年度 登山教室実施報告

群馬岳連登山指導委員会
対比地 昇

参加者二十五名、講師十八名で、例年並みの参加を得て、今年度も無事に登山教室を終了することができました。

例年、女性の参加者が多いという状況がありました。今年度は約三分の二が男性で、単独登山者が多い傾向にある男性の参加者が増えたのは良かったと思っています。また、今年度からネットを利用しての申込みも可とし、約半数の方が利用して、申込

平成27年度

日程・内容・人数

回数	実施日	内 容	参加	講師
1	9/2 (水)	開講式 座学①「読図地形図について 手島」	25	12
2	9/10 (木)	座学②「シルバコンパスの使い方 岩井」 座学③「休憩と食事・水分のとり方 対比地」	24	9
3	9/12 (土)	登山実技「赤城山」1班(黒檜、駒ヶ岳)、 2班(地蔵、長七郎)、3班(薬師、陣笠)	23	7
4	9/26 (土)	登山実技「赤城山」1班(地蔵、長七郎)、 2班(薬師、陣笠)、3班(黒檜、駒ヶ岳)	19	9
5	10/1 (木)	座学④「登山計画書 星野」 閉講式	24	10
皆勤(修了証)			17	
特別 講習	3/5 (土)	登山実技(スノーシュー) 「玉原湿原周辺」	申込 9	



実技講習 全体集合写真(赤城ビジターセンターPにて)

この登山教室は初心者を対象にしているということ、例年、「地形図の見方」、「シルバコンパスの使い方」を講習の中心に据えています。昨年度好評を得た「登山計画書」の講習を今年度も入れ、新たに「休憩と食事・水分のとり方」という初心者向けの講習を入れました。また、今年度は実技を同じ山域で二回実施しましたが、山を楽しむということだけでなく、読図を中心とした講習をしっかりとやるという位置付けができて良かったと思っています。今年度も天気に恵まれましたが、前日の悪天の影響で

*ふるさとの山に登ろう

登山道が荒れていたり、太枝が落下してきたりということがありました。講習に活かしたという面もありましたが、運営上気を付けなければならないところでもあります。

アンケートの結果を見ると、ほとんどの参加者が「期待通りだった」、「今後の登山に役立つ」という回答で、好意的で前向きな感想が多く見られ、今後の運営の励みになりました。講師など関係者による反省会を開き、よりよい登山教室になるようにしていきたいと思っています。



実技講習 読図(赤城 地蔵岳にて)

仲間に誘われて	3
仲間を見つかるため	3
登山の知識を増やしたかったから	21
登山の技術を習得したかったから	13
情報交換のため	1
もっと理解を深めたかったから	8
その他(妻に勧められて)	1

(5) 参加した理由は
何ですか？

あり	15
なし	8

(3) 小屋泊の
経験は

あり	9
なし	14

(4) テント泊
の経験は

0～2年	10
3～4年	2
5～6年	1
7～10年	7
11～15年	0
16～20年	0
21年～	1

0～5回	11
6～10回	5
11～15回	1
16～20回	1
21～30回	1
31回～	1

(2) 登山を始めて何年ぐらいですか。また、1年に何回くらい登山に出かけますか。

男	15
女	8

～30	0
31～40	0
41～50	5
51～60	6
61～70	11
71～	1

初めて	22
あり	1

アンケートの結果
(1) 参加者の男女数、年齢構成、この登山教室の参加経験。

高い(希望額円)	2
適額	18
安い	3

(6) 参加費の
五千元は

①座学

読図

山の天候と天気図

山での危険の回避

山での応急処置

服装・装備

歩行技術

行動計画

食糧計画

生活技術

その他

7

15

14

16

6

8

5

6

5

0

②座学「シルバコンパスの使い方」

理解できた

少し理解できた

あまり理解できなかった

今後の登山に役立つ

少し役立つ

あまり役立たない

欠席

11

10

1

18

3

0

0

③座学「休憩と食事・水分」

理解できた

少し理解できた

あまり理解できなかった

今後の登山に役立つ

少し役立つ

あまり役立たない

欠席

17

4

0

16

3

0

0

④座学「登山計画書」

理解できた

少し理解できた

あまり理解できなかった

今後の登山に役立つ

少し役立つ

あまり役立たない

欠席

14

3

0

15

2

0

0

⑤実技「赤城山1回目」

理解できた

少し理解できた

あまり理解できなかった

今後の登山に役立つ

少し役立つ

あまり役立たない

欠席

15

8

0

19

2

0

5

⑥実技「赤城山2回目」

理解できた

少し理解できた

あまり理解できなかった

今後の登山に役立つ

少し役立つ

あまり役立たない

欠席

14

2

0

15

1

0

4

⑦各回の講習はどうでしたか？

⑧登山教室のテーマとして興味のあるものは？（複数回答可）



実技講習 班別集合写真（赤城 長七郎にて）

①	楽しかった	19	(9) 全体を通して、今回の登山教室に参加してみたいか？	②実技	無雪期のテント泊山行	9
	少し楽しかった	2			無雪期の小屋泊山行	6
	あまり楽しくなかった	0			縦走路でのロープワーク	10
②	今後の登山に役立つ	18			岩登り	5
	少し役立つ	2			沢登り	5
	あまり役立たない	0			雪山登山	4
③	期待通りだった	19			その他	0
	少し期待はずれだった	2				
	期待はずれだった	0				

(10) 講習について感想、意見、気がついた点などご記入ください

○座学あり実技ありで楽しく学べました。久しぶりに山に登ってみて、やはり頂上に立ったときの達成感は何とも言いがたい気分です。今回の講習を参考に事故に気を付け、山行を楽しみたいと思います。

○教室に参加して大変勉強になりました。講師の方々にもお世話になりました。山に行くときは地形図をよく見て、自分の体力にあったコースを選び、他の人に迷惑や心配をかけないように楽しい登山をしたいと思います。

○シルバコンパスの使用方法について個別指導していただき分かりやすかった。

○正置が基本と思いますが、あやふやになります。時間が経つと。分かったつもりで理解できていない気がしますが、地図を持って山に入ること、慣れていきたいと思う。生死を分けることもあるかもしれないと今回の講座で認識しました。

○実地でコンパスが使えるようになりました。

○実技について、レベル分け（経験分け）した方がいいのかも。

○大変参考になりました。天気図などの読み方などが分かればもっと良かったと思います。

○危険回避などの講習会があるとありがたいと思います。次のステップを踏みたいと思います。

○実技は楽しく、今後に役立ちそうです。今までは連れて行ってもらっばかりで、地図も見えていなかったのですが、今後は地図を見て参加したいと思います。

(11) その他、感想、意見、改善したほうがよい点など自由にご記入ください。

○今後も参加できる教室があれば参加したい。

○講師の方々には感謝申し上げます。

○天気図の見方及び、予想の仕方についての内容を入れてもらいたい。

○机上とフィールドワークの組み合わせは理解が深まると思いました。保険加入の必要性について聞きたかった。

○テント泊（レンタルありで）を企画して欲しい。

○読図が楽しくなりました。

○エマージェンシー（非常事態、緊急事態）講座があってもいいかも。ロープワークを学びたいです。

○地図の見方、コンパスの使い方が分かった。これからは地図、コンパスを使い、安全な登山をしていきたいと思ひます。有り難うございました。

○中級者向けの講座などであると良いと思う。

○基本的なことが理解できて助かりました。以後もっと勉強したいと思ひます。

○楽しく参加しました。気楽に考えていた山行きですが、今までけがや事故がなかったのが良かったです、これからは充分に注意して楽しもうと思ひます。いろいろな疑問にも答えてもらいました。有意義な研修ができて良かったです。

第38回県民登山大会報告

群馬岳連総務委員長 女屋等志

平成二十七年十月二十五日
(日)、利根郡みなかみ町の大峰山
(二二五四m)、吾妻耶山(一三四
一m)で開催しました。例年同様
にぐんま山の日「ぐんま山と森の
月間」協賛イベント、第三十一回
群馬県民の日記念事業として開催

されたものであります。集合場所
は、利根郡みなかみ町の大峰山登
山口駐車場でしたが、参加者には
場所が分りにくいこともあつて遅
刻者が数名おりました。駐車場付
近にトイレが一箇所しか無いこと
で、みなかみ町に要望して仮設ト



イレを三基用意していただきました。
た。

本大会は二コースを設定し、A
コースは次のとおりです。

駐車場↓大峰沼↓大沼越え↓N
HK電波塔↓大峰山↓赤谷越え↓
吾妻耶山西峯↓吾妻耶山↓ノルン
スキー場上部第1リフト↓大峰沼
↓駐車場

Bコースは次のとおりです。

駐車場↓大峰沼↓(直登路)↓
NHK電波塔↓大峰山↓赤谷越え
↓吾妻耶山西峯↓吾妻耶山↓ノル
ンスキー場上部第1リフト↓大峰
沼↓駐車場

参加者は、県山岳連盟役員三十
二名、一般参加者六十四名、合計
九十六名でした。

大会当日は、天候に恵まれましたが、開会式時点で冷え込みが強く感じられ、寒冷時の健康管理について、医療救護部の小和田美由紀さんから準備・行動・休憩時にわたっての注意点が示されました。

稜線上では時折冷たい強風が吹きましたが、本大会の参加者は総じてすこぶる元気な山歩きを行なつて、紅葉の山々を満喫しておりました。

大峰山・吾妻耶山の山頂部や大峰沼畔では、チーフリーダーやサブリリーダーから地形・地質や植生等について解説が行われました。



動の一環として実施され、約4キロのゴミを収集しました。

参加者には本大会記念品としてLEDライトが配られ、また、行動終了時に恒例の熱々のなめこ汁が振る舞われ好評でした。

こんなテクニク知ってますか？ カメラ等の重みを首に負担をかけず胸に置く

大間々山岳会 福田 純一



ラップをザックの雨蓋下に通すのです。ストラップは背負いベルト上に乗り、首・肩への重量負担は殆ど感じ

う片手でストラップと背負いベルトを鷲掴みにしてストラップに頭を通さないとカメラの位置が胸の中央からずれてしまいがちです。雨蓋のないザックではカラビナ等で適当な場所に引っ掛けると良いでしょう。大型双眼鏡にも応用できます。

まめに写真を撮る歩き方の場合、ネックストラップ付のカメラではこれを首に掛けることが多いと思います。しかし結構首に負担があります。

私は車で追突されたムチ打ちの後遺症があり首に掛けてはられず、この負担をなくす方法を考えました。

写真に示すようにネックスト、

なくなりません。また首筋にこすれる不快感もありません。

この方法の限界はカメラとザックの重さを腕力だけで持ち上げられるか：でしょうか。片手でカメラ、も



関東 オートキャンプ場 なら 桐の木平キャンプ場 溪流サイト 団体専用あり

桐の木平キャンプ場

〒378-0102

群馬県利根郡川場村川場湯原2681

tel 0278-52-2442

電話、弱电工事

プモリ電設

〒379-2223

伊勢崎市小泉町 252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2

TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026